

予報期間 8月12日から8月18日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第15号と第16号については最新の台風予報を参照。
- 14日から16日にかけて、高気圧が千島の東付近に停滞する。東シナ海から日本の南は低圧部となる。
- 17日から18日にかけて気圧の尾根が西日本付近にのび、気圧の谷が沖縄・奄美付近にのびる。

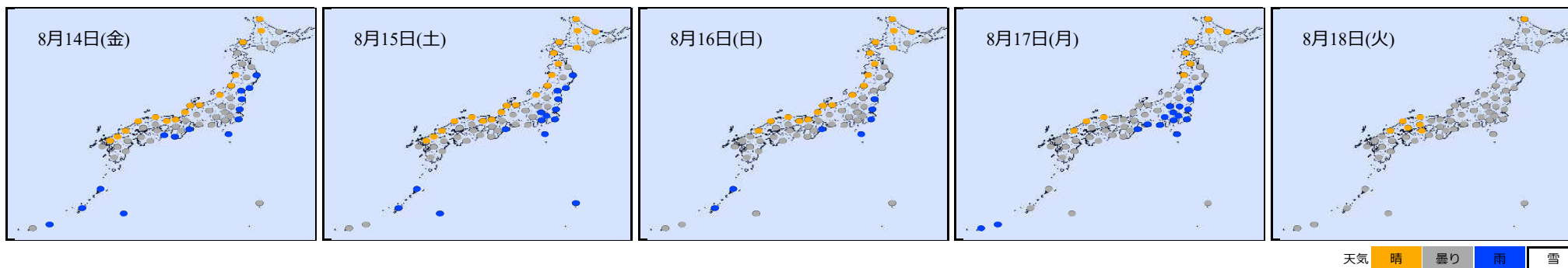
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 西日本では、大潮の時期にあたるため、潮位の変動の程度によっては14日頃にかけて高潮のおそれがある。
- 西日本では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

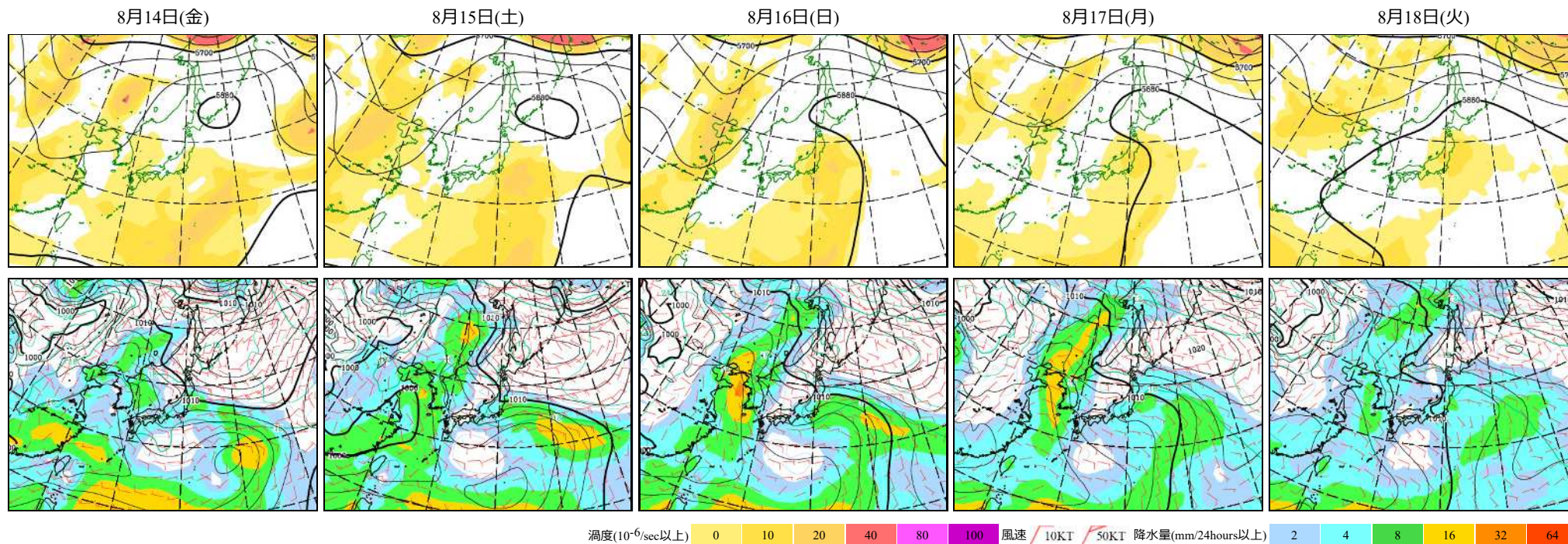
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

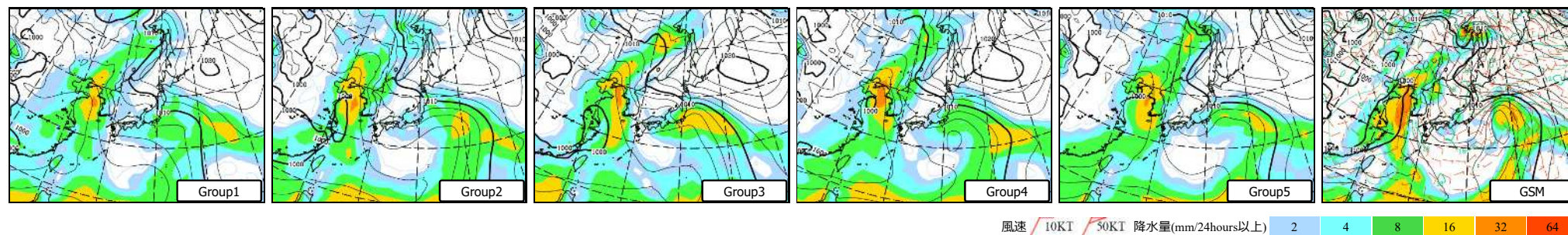


- 北日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや晴れの日が多い。
- 北日本から西日本にかけての太平洋側と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月16日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、14日から15日にかけて西日本付近のカットオフしたトラフが弱まった。千島の東の高気圧は弱くなったが北海道付近への張り出しは強くなった。16日から17日にかけて日本の南の低圧部が弱くなった。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきも見られる。
- 降水確率ガイダンスの値は、14日は西日本で小さくなった。16日は東・西日本太平洋側を中心に小さくなった。
- 単独モデルは期間後半に熱帯じょう乱の北上を予想するものがあるが、その強さや位置はモデル間の差が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。